

## 35 主節不定詞

**主節不定詞 (root infinitives)** は言語を獲得している2歳前後から3歳ごろまでの子どもが使用する言語形式の1つである。大人は主節の動詞に時制が表示されている定形 (finite) を使用するが、この時期の子どもは主節に時制がない不定形 (infinite) を使用することがある。主節に不定形を用いることから主節不定詞と呼ばれている。興味深いのは、子どもは同時に定形の動詞を主節で使用することもあり、定形・不定形が混在している。このことから**随意的不定詞 (optional infinitives)**とも呼ばれている (Wexler 1994)。

例えば約1歳半の英語を獲得している子どもは次のように定形と不定形の両方を使用する。以下の例はCHILDESコーパスより (MacWinney 2000)。

- (1) 母: What happened?  
a. 子: I fall.  
b. 子: I fell.
- (1a) では母親の過去時制の質問に対して屈折が無い不定形のfallで返答し、(1b) では過去時制のfellを使用している。また、主語が三人称単数で時間が過去の文脈の場合でも子どもは不定形のHe fall downを発話することがある (Hyams 2007: 234)。大人文法であればfellが正しい形で、現在形だとしてもfallsにならなければならない。時制表示なしに時間表示する特徴の他に、平叙文で使用されるが疑問詞疑問文では使用されない、時間表示に語彙的な相 (lexical aspect) が使用されるなどがある (Guasti 2016)。

このような現象は英語に限らずオランダ語、フランス語、ドイツ語、ロシア語でも報告されている (Guasti 2016 参照)。反対にイタリア語やスペイン語のような代名詞主語省略言語 (pro-drop language) では、主節不定詞は観察されない。日本語も同様に主節不定詞は見られない (Sano 2002)。

主節不定詞は子どもだけでなく大人も発話することが知られている。**大人主節不定詞 (adult root infinitives=ARI)** と呼ばれ、例えばJohn kiss Mary?! Never! のような文である (Grohamann and Etxepare 2003: 202)。kissは主語が三人称単数のJohnにも関わらず不定形である。英語では驚きを表す際に使用される。

子どもの主節不定詞現象の起こる原因について、いくつかの提案がされてきた。Radford (1990) では、子ども文法は語彙範疇 (lexical category) から成る**語彙主題構造 (lexical-thematic structure)** であり、大人文法とは違い機能範疇 (functional category) が欠けており、その範疇の1つである時制句がないことが要因であると

説明している。

Schütze and Wexler (1996) と Wexler (1998) は**一致・時制削除モデル (agreement/tense omission model)** を提唱し、大人文法では時制 (tense) は指定 (specified) されているが、子ども文法では未指定 (underspecified) になっていることを原因として挙げている。

Rizzi (1993/4) は**切断モデル (truncation model)** を提案している。大人文法では節は下から順に動詞句 (verb phrase=VP), 時制句 (tense phrase=TP), そして補文標識句 (complementizer phrase=CP) と投射される (構成される) が、子どもの節の投射は時制句までしか届かずその下で切断されてしまう。その結果、時制句より上層がないため、主節不定詞が発現する。

Hoekstra and Hyams (1998) では、語用論的知識の発達の関与を示唆している。ある文の時間を決定するには文法的手段 (時制) と語用論的手段 (文脈に依存) があり、その文意が同じ場合、大人文法では特別な場合を除き文法的操作が優先され、子ども文法では両方の選択肢に優位さがないままになっている。この違いによって子どもは大人より多くの主節不定詞を発話する。

最後に Legate and Yang (2007) は形態素の**統計学習 (statistical learning)** に注目している。子どもは獲得している言語が、予め普遍文法 (universal grammar) が指定する「時制有」(+tense) と「時制無」(-tense) のどちらの値に属するかを獲得中の形態素データ (言語入力) から導き出す。初期設定は中立でデータ内に時制形態素が多ければ「時制有」に設定する。最終的な設定は一定の入力量を必要とするため直ちに設定は行われず、子どもは「時制無」の主節不定詞を一時的に発話することがあると分析している。

(関田 誠)